

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170503700		
法人名	北海ケアサービス(株)		
事業所名	グループホーム 北海ハウス二番館 ききょう		
所在地	札幌市白石区北郷8条3丁目6-30		
自己評価作成日	平成30年10月31日	評価結果市町村受理日	平成30年12月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503700-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503700-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きな交通量の多い道路に面している、格子戸風の門構えの為、料亭とよく間違えられます。外観・内装共に和風で、落ち着いた温かみのある作りになっています。築10年以上になるが、明るく清潔感を保つように努めています。共有空間は手作りのカレンダーや季節の飾りつけをし、季節の移り変わりが解るように工夫をしています。入居者が観葉植物に水をあげたり、熱帯魚を眺めたりしながら思い通りに過ごしています。ベランダや中庭には春になると色とりどりの花を植えています。中庭では家族や地域の方々を招いてバーベキューを楽しんだり、冬にはフロアが北海居酒屋になったりします。調理専門のスタッフを配置し、1日おきには近所のスーパーに買い物に行くため、新鮮で旬の食材が手に入るので彩りよく美味しい食事が提供できています。入居者の方々も食事の時間を楽しみにしています。個々の病気や食事の摂取状態を把握して、自力で安全に摂取できるように工夫も行っていきます。お誕生日にはその方の好みを優先して料理を作り、皆でお祝いをしています。行事食にも力を入れています。それぞれが好きな物を食べに、いくつかのグループに分かれて外食にも出かけています。季節的に暖かい時期には中庭で日光浴をしたり、近所に散歩に出掛け、庭のお花を見せてもらったり、犬を抱かせてもらったりと地域の方々とも交流させてもらっています。今までの生活環境と変わらない、家庭的な雰囲気大切に、認知症があっても安心して暮らせるやすらぎの家を目指し、「笑顔で 明るく やさしく」を理念に掲げ、職員一同日々取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 北海ハウス二番館」は、道央道付近の住宅地に立地する開設13年目の2ユニットのグループホームである。和風の落ち着いた雰囲気がある建物で、清潔感のある居間と食堂は、窓から明るい光が注ぐ開放感のある造りになっている。管理者を中心に、ユニット会議で個別のケアチェックやそれぞれの利用者への適切な対応について意見交換し、笑顔で明るくその人らしい生活が継続できるよう、理念に沿ったケアを行っている。近所に住んでいた方が来訪したり友人との外出など、可能な限り馴染みの人々との関係が途切れないように支援している。食事は、利用者の意向を反映させながら栄養バランスの取れた彩りのよい品々が提供されている。誕生日に寿司などの出前を取ったり、好みや嚥下状態に合わせて数人での外食に定期的に出かけて食事が楽しめるように工夫している。身体状況や介護度の変化により年間の外出行事は少なくなっているが、花見や紅葉狩り他、日々の散歩や中庭での外気浴などを積極的に取り入れるように努めている。医療面では、事業所で殆ど受診支援を行って主治医と関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。また、看護師資格のある介護職員も在籍しており職員や利用者の安心感にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム・玄関に運営理念を掲示して共有している。「笑顔で 明るく やさしく」を理念に、家庭的な雰囲気の中で、安心して暮らせるよう努めている。	法人共通の運営理念を事業所理念として掲げ、入社時にも説明している。玄関やスタッフルームなど、目につく場所に掲示して職員に意識づけしている。リーダーは、言葉かけなど気になる対応があれば理念を引用して指導している。	法人理念を基に、地域密着型サービスを意識できるような事業所独自のケア理念などを作成するよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々の協力を得て、ホーム内でのイベントに参加して頂いている。また、散歩の時は声を掛けて頂いたり、犬を抱かせてもらったりしている。	敬老会に、地域婦人部の方が来訪して歌や踊りを披露している。サクソ演奏のボランティアが来て、利用者と一緒に歌をうたうこともある。幼稚園児や小中学生との交流も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会館にチラシを置かせてもらっているが、地域の方々の訪問には至っていない。運営推進会議の後に懇親会を開催し、交流をしながら現状を理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日頃の様子や活動等の報告をし、話し合いや意見交換を行っている。議事録を作成し、共有して更なるサービスの向上に活かせるよう努めている。	事業所からの報告を中心に、年2回地域との交流会を実施している。外部評価結果や地震時の報告も行っている。家族の参加も時々あるが固定化している。全家族に会議案内と議事録を送付している。	ミニ勉強会を開催したりテーマを記載した会議案内を送付して、参加できない家族の意見を事前に聞き取り、会議に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の方と連絡を取り合い、情報交換を行いながら協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者は、書類の提出で市役所に出向いたり、介護保険の更新や各種書類の申請手続きなどで区役所を訪問している。保護課の職員とは、利用者の状況を伝えながら情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を発足し、3ヶ月に1度開催している。外部研修への参加、社内研修で都度禁止事項を確認している。ホームの立地上やむおえず玄関の施錠は行っているが、希望があれば同行している。	身体拘束マニュアルを基に、「禁止の対象となる具体的な行為」について年2回内部研修を実地している。ユニット会議で事例に沿って検討することもある。転倒防止のため、家族や病院の意向でセンサーマットを使用している。不適切な言葉かけについても内部研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議の際に虐待にあたる行為の確認をし、起こってしまう前にスタッフや入居者の様子への気付きを報告をするようにしている。		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば個々の関係者と話し合い、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定等の際は、十分な説明を行い理解・納得を得て行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報誌を発行したり、運営推進会議の案内文を郵送する際は日頃の様子を記入している。来訪する家族は限られている為電話やメール手紙等で連絡を取り合い、都度運営に反映させている。	家族には、来訪時や電話で利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、「介護・看護支援経過」に記入している。広報紙の発行頻度がユニットにより違いがあるため、今後は両ユニットとも毎月発行していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月毎に各ユニットの会議を行い、個々のケアや業務の見直しを行い、職員それぞれの意見や提案を聞きながら改善を行っている。必要があれば、職員の意見が代表者まで届くようにしている。	ユニット会議で、個別のケアチェックや利用者への対応などで意見交換したり業務の見直しを行っている。管理者は、年度初めに各職員の外部研修の希望を聞いて受講できるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況や仕事への取組みの姿勢を把握し、やりがいや向上心を保ちながら仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や実績・力量を把握し、必要と思われる研修の機会を持ち、学んできた事を共有して日々のケアに活かし、日常の業務の中でも職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は法人内の各事業所や、他事業所との交流を定期的に行って、ネットワーク作りや勉強会、互いの現状や相談事を話し合うことで、サービスの向上への取り組みを行っている。職員は外部研修時の交流にとどまっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報と照らし合わせながら、本人の不安や要望・困りごと等に耳を傾け、良好な関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望も聞きながら、不安なくサービスが利用できるように信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族、前担当者からも情報収集を行い、「その時」に必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切に、馴染みの関係を築きながら、共に支え合って生活するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、家族の協力を得ながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪や友人との外出・外食等の支援を行っている。馴染みの理容室に行くためや、近所の商店に煙草やお菓子を買いに行くための同行を行っている。年賀状の購入・印刷の同行や切手の購入、投函の支援を行っている。	近所に住んでいた方が数人で来訪したり、友人と集会や記念館見学などに出かけている利用者がいる。家族とお墓参りや法事に出かけることもある。携帯電話で友人や家族と話しをしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有のスペースでは利用者同士の関係を把握して席の調整を行っている。イベントの準備やカレンダー作成等、役割分担をして皆で協力をしながら物作りをする機会を作り、お互いが関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて本人・家族の相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動を観察して個々の思いや暮らし方・意向の把握に努めている。言葉にならない思いもスタッフ間で情報を交換しながら組みとるよう努力している。	会話や発語などから思いや意向を把握して、本人の負担にならないような生活を支援している。センター方式シートを活用しているが定期的に更新されておらず、趣味や嗜好などの情報も少ない。	アセスメントシートを年1回更新する共に、センター方式B-3シートを活用して、趣味や嗜好の情報も蓄積するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族、前担当者などから情報収集し、本人との会話の中から引き出した情報も共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・温度板等に記録をし、個々の1日の過ごし方、心身状況、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月毎の会議でケアの見直しを行っている。家族や関係機関とのやり取りは支援経過に記録し、連絡ノートも利用して職員間で情報を共有しながら、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画に沿って2か月ごとにモニタリングを行い、6か月ごとに見直している。今後は、サービス内容に沿って変化や課題も分かりやすく介護記録に記入し、介護計画の見直しに活かしたいと考えている。	介護計画の見直し時のモニタリングは、具体的なサービス内容項目に沿って記録に残すよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を個別に記入して、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じた柔軟な対応や支援ができるよう日々取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の暮らしの中での地域資源を把握し、地域の方々との触れ合いを通じて安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科の往診医はいるが、今までのかかりつけ医を希望される方は継続受診ができるよう家族とも相談しながら支援している。往診以外の受診が必要な時も家族が対応できない時は対応している。	かかりつけ医を継続している方もいるが、殆ど事業所で受診支援を行い、主治医と連携して適切な対応を行っている。家族と受診する時は温度版と薬表を渡している。受診記録は、家族のやり取りと別用紙に整理したいと考えている。	

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員では判断できない事は、職場内の看護師や提携医療機関の看護師に相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は日常の様子、服薬状況等の情報を伝え、安心して治療ができるように努めている。病院関係者とは日頃から情報交換や相談をして良好な関係を保つよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にここでできる限界を説明し、実際にその時期が近くなった時には、本人・家族と話し合いながら協力機関と方針を決めている。現状ではまだ看取りを行っていないが、今後医療機関と相談しながら取り組みを検討していく予定。	「重度化した場合の対応方針」に沿って、口から食事や水分が摂取できなくなった場合は事業所として対応が難しいことを伝えている。今後は看取り対応の勉強会を実施し、全職員で学びを深めていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルの整備、研修への参加で応急手当や初期対応ができるように努めている。看護師・管理者は24時間対応できる体制にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を実施し、全職員が対応できるように取り組んでいる。地域との協力体制も築いている。	主に夜間の火災を想定した避難訓練を年4～5回実施し、うち1回は消防署の協力を得ている。最近では地域住民の参加は得られていない。今後は地震時の危険箇所を確認し、冬季の防寒対策に必要な備蓄品も整備したいと考えている。	年1回は、地域住民の参加を得て避難訓練を実施するよう期待したい。また、火災や地震、水害などの防災マニュアルを整備するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、男性が多く、プライドの高い方もいるので、言葉かけや対応の仕方をスタッフ間で話し合っている。特に排泄に関しての声掛けには気を使っている。	利用者の呼びかけは苗字か名前に「さん」づけとし、利用者順で申し送りを行い、名前を言わないようにしている。職員は入社時に言葉遣いや接遇の研修を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で本人の思いや希望を引き出す働きかけをしたり、選択肢を少なくする等して、なるべく自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができるように、個々のペースを大切に、希望がある時はできるだけ添えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを把握・尊重して、その人らしいおしゃれができるように支援している。化粧やマニキュア等も自由になっている。		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(ききょう)	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、彩り・バランスの良い食事の提供を心掛けている。利用者と職員と一緒に食事をし、負担にならない程度に準備や片付けに参加してもらっている。行事食や外食も楽しんでいる。	食べたい物を聞きながらユニット毎に献立を立て、栄養バランスや彩りのよい食事が提供されている。利用者が食器拭きなどを手伝うこともある。年2回、外食に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好み・病気・嚥下状態等を理解して食べやすい形態で提供し、食事・水分が1日を通して確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・衛生士と連携しながら、口腔内の衛生を保つように支援している。毎食後口腔ケアを行い、夜間は洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に介助が必要な方は排泄の記録を付け、声掛け・誘導を行って失禁を減らすような支援を行っている。	夜間は全員、日中は必要な方の排泄記録を作成している。殆どの利用者はトイレでの排泄が可能で、状態に応じて、リハビリパンツ、おむつ、異なる大きさのパッドを使い分けている。誘導の際は羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や飲み物を工夫して運動の働きかけを行い、水分量も確保しながら、医師とも連携して個々に応じた便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれの日程や希望に沿って曜日を決めたり、気の進まない日はずらしたりしながら、気持ちよく入浴できるような支援をしている。	毎日、午後の時間帯を中心に各利用者が週2～3回入浴している。数名の方はシャワー浴となっている。希望に応じて同性介助とし、入浴時は好みの入浴剤を使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣やその時々状況に応じて日中でも休息を促している。夜間も安眠できる環境を整え、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気を理解し、誤薬が起こらないように十分な管理を行っている。追薬・減薬・変更時は全職員と情報を共有している。服薬時も個々の能力に応じた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの楽しみや嗜好品・有する力等を把握して、張り合いや喜びのある生活が送れるように支援している。		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ききょう)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があればなるべく対応できるよう努めている。遠方の場合は、家族にも相談して協力を求め、なるべく実現できるように支援している。	日常的に周辺を散歩したり外気浴を行い、ベランダでの外気浴では猫や小鳥と触れ合うこともある。デイケア通いで外出する方もいる。行事では、花見や紅葉狩り、中庭でのバーベキューなどがあり、外食行事は状態に応じて、ステーキ、回転寿司、ハンバーグのグループに分けて出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち自由に電話をしている方が2名いる。操作の対応をする事あり。他は希望により対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔を保ち、植物や熱帯魚・季節の飾りつけや写真・作品等を飾り、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	共用空間は和風の落ち着いた造りで、格子状の装飾が戸に施されている。居間はベランダに面し、バーベキューのできる中庭もある。壁には品の良い絵画が多くあり、カレンダーや写真も飾っている。熱帯魚や雑誌、観葉植物等を配置して、家庭的で活動意欲の持てる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や相性等を考慮して食席の配置を考え、1人で居たり、会話をしたり、思い思いに過ごせるような居場所になるように工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人・家族と相談しながら、馴染みの物や使い慣れた物、家族の写真や趣味の物等を配置して居心地よく過ごせるような空間にしている。	利用者がそれぞれ、テレビやタンス、仏壇、洋服掛けなど馴染みの家具を持ち込んでいる。壁には利用者の刺繍作品やカレンダーを飾って、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや玄関等には案内を出し、個々の居室の入口には表札を付ける等して、迷わず自立した生活が送れるような工夫をしている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170503700		
法人名	北海ケアサービス(株)		
事業所名	グループホーム 北海ハウス二番館 すみれ		
所在地	札幌市白石区北郷8条3丁目6-30		
自己評価作成日	平成30年11月2日	評価結果市町村受理日	平成30年12月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170503700-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170503700-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きな交通量の多い道路に面していて、格子戸風の門構えの為、料亭とよく間違えられます。外観・内装共に和風で、落ち着いた温かみのある作りになっています。築10年以上になるが、明るく清潔感を保つように努めています。共有空間は手作りのカレンダーや季節の飾りつけをし、季節の移り変わりが解るように工夫をしています。入居者が観葉植物に水をあげたり、熱帯魚を眺めたりしながら思い思いに過ごしています。ベランダや中庭には春になると色とりどりの花を植えています。中庭では家族や地域の方々を招いてバーベキューを楽しんだり、冬にはフロアが北海居酒屋になったりします。調理専門のスタッフを配置し、1日おきには近所のスーパーに買い物に行くため、新鮮で旬の食材が手に入るので彩りよく美味しい食事が提供できています。入居者の方々も食事の時間を楽しみにしています。個々の病気や食事の摂取状態を把握して、自力で安全に摂取できるように工夫も行っています。お誕生日にはその方の好みを優先して料理を作り、皆でお祝いをしています。行事食にも力を入れています。それぞれが好きな物を食べに、いくつかのグループに分かれて外食にも出かけています。季節的に暖かい時期には中庭で日光浴をしたり、近所に散歩に出掛け、庭のお花を見せてもらったり、犬を抱かせてもらったりと地域の方々とも交流させてもらっています。今までの生活環境と変わらない、家庭的な雰囲気大切に、認知症があっても安心して暮らせるやすらぎの家を目指し、「笑顔で 明るく やさしく」を理念に掲げ、職員一同日々取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で 明るく やさしく」を理念として、家庭的な環境で安心して利用者が暮らせるように支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段の散歩や町内会の行事に参加をして、地域の方々と交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方々に知ってもらうようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では近況や取り組みを報告し、更なるサービスの向上に活かせるよう意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の方と連絡を取り合い、情報交換を行いながら協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を立ち上げ、委員会で話し合ったことを含めフロア会議にて職員に連絡し、年3回の学習会をおこなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、社内研修で職員が正しく理解できるように努めている。		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば、関係者と話し合って活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時又改定等の際は、十分な説明を行い、理解・納得を得ながら行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、利用者・家族等の意見を反映し、運営できるよう努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議時に個々のケアや業務について意見を出し合い見直しを行っている。必要な事は代表者に届くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況や努力・実績を把握して、やりがいや向上心を保ちながら仕事ができるような環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や実績・力量を把握し、必要と思われる研修に参加するとともに、日常の業務の中でも職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にもグループホームが他に2ヶ所あるが、交流はほとんど無い。外部研修に参加した時に交流する程度。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集をすると共に、本人の話を傾聴したり、表情を観察したりしながら安心してもらえるような対応に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望も聞きながら、不安なくサービスの利用ができるような関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向に寄り添い、既往歴・身体的な状況、精神的な状況に応じ、他のサービス利用も含めて見極めと支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事はして頂き、共に支え合える関係を心掛けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、共に本人を支えていく関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人・知人が訪ねて来る事もある。関係が継続できるように支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの状態・性格等を考慮して食事席の配置調整を行い、互いに支え合える環境作りを心掛けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との毎日の関わりの中で思いを傾聴し、意向に添えるよう支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力により入居前の状況、本人との対話等から情報収集を行い、今後の暮らしに結び付けられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、温度板、申し送り等で情報を共有し、それぞれの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に全体でモニタリングを行い、必要に応じて各関係者とも話し合い、より良く暮らすための課題とケアのあり方について現状に即した介護計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきを、適宜介護記録に記入するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じた柔軟な対応や支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、それぞれが安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に提携医療機関の往診を受けており、また個別の受診も対応し、健康維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しているため、相談や情報共有がし易い環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療し、早期に退院できるよう、病院と密に情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期支援については、現状では行っていないが今後取り組んでいきたいと思っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて定期的に研修に参加している。看護師、管理者は24時間対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。今回の地震にて学ぶ事が多くあった。		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重して、言葉かけや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の思いや希望を引き出して、選択肢を少なくする等、なるべく自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができるように個々のペースを大切に、希望がある時はできるだけ添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択できる方は、意向を取り入れている。		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベントの時等は出前や外食を楽しんでいる。お手伝いの可能な方は食器やお盆を拭いてくれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合った量や形態で提供している。水分摂取の困難な方は記録を付け、好みの味、温度等を工夫しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。困難な方は介助をし、歯磨きティッシュを使用したりしている。歯科医・衛生士の来訪時にはアドバイスを依頼する事もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付けたり、様子を見て誘導をしながら自立に向けた取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事や朝の牛乳提供などで便秘の予防に取り組んでいる。排便の記録を取り、主治医の指示の元、水分調整、下剤調整等を行い、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせて、その日の状態をみて楽しく入浴ができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣やその時々状況に応じて、安眠や休息ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服用している薬を理解して、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は生活の中での役割として担ってもらっている。年間の行事以外にも日々の楽しみや気分転換ができるように支援している。。		

グループホーム 北海ハウス二番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すみれ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って外出できるように支援している。普段は行けないような場所でも本人の希望を把握し、車で外出できるように支援している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力に応じて支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の中継ぎをしたり、年賀状の印刷依頼・投函などの支援をいっている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔を保ち、特に長い時間過ごすフロアには季節を感じる絵や手作りの飾りを作成し、居心地よく過ごせる様な空間作りに努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフが見守りながら独りで過ごす時間や、利用者同士で話をしたり、楽しく自分らしく過ごせるような環境・居場所作りの工夫をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人・家族と相談しながら、使い慣れた物や好みの物を配置し、安心して居心地よく過ごせるように工夫をしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	よく使用する場所には案内板を付けたり、居室には表札を付ける等して迷わず安全で自立した生活ができるように工夫をしている。			



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 北海ハウス二番館

作成日：平成 30年 11月 29日

市町村受理日：平成 30年 12月 3日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人全体としての理念だけではなく、二番館としての地域との関わりを盛り込んだケア目標が作成できていない。	法人理念を基に、地域密着型サービスを意識できるような事業所独自のケア理念を作成する。	利用者が地域の方々とふれあい、繋がりを持って日々暮らしていけるように積極的に外にでたり、またホームに来てもらったりできるような環境作りをしていきたい。幼稚園や小中学校にも働きかけをしていきたい。	1年
2	4	運営推進会議に家族の参加が少なく、家族意見の吸い上げが少ない。	地域の方々や家族の意見を取り入れながら、更なるサービスの向上をめざす。	ミニ勉強会の企画や、テーマを設定して引き続き会議への参加を呼び掛けながら、今後年1回はケアや運営に対してのアンケートを実施して意見を吸い上げていきたい。	1年
3	23	アセスメントシートに日付けの記入がないものもあり、いつ作成したものなのか分からない。定期的な更新がなく、趣味や嗜好等の情報が少ない。	アセスメントシートは年1回必ず更新していく。B-3シートを活用して、趣味や嗜好の情報も蓄積していく。	すぐにB-3シートの活用を始めたので、今後はアセスメントシート・B-3シートを定期的に必ず更新していく。	1年
4	26	見直し直前のモニタリングが、全サービス項目に対して記入されていない。ケア項目に対しての介護記録が行ったケアの記入だけになっている。	介護計画見直し時のモニタリングは、具体的なサービス内容項目に沿って記録に残していく。介護記録の記入の見直しを行う。	見直し直前のモニタリングは内容項目に沿って記入していく。介護記録の記入は、行ったケアに対しての反応や結果を記録していくように徹底する。	6ヶ月
5	35	避難訓練に、しばらく地域の方の参加を呼び掛けている。地震時の危険箇所の確認と防寒対策がまだ不備である。	防災マニュアルはまとめてファイル化し、避難訓練には地域の参加を呼び掛ける。地震時の危険箇所の確認と冬季の防寒対策に必要な備蓄品の整備を行う。	防災マニュアル、防寒対策については既に整備を行った。3月の運営推進会議の時に消防署の協力も得て、地域の方にも呼び掛けて避難訓練を行う予定でいる。地震時の危険箇所に対しては、確認と対策を行っていく。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。